

11月23日（木）、ある住民の方からサンクスギビング（感謝祭）・ディナーに招かれた。夕食を頂いた後、テーブルを囲む全員で「この一年で一番感謝したことは何か」を語り合う。家族、健康、仕事。改めて色々なことに感謝する機会を頂いた。

連休を利用して、フランク・ロイド・ライト建築を見に、シカゴ西部郊外のオークパークを訪れた。ライトが熱心に蒐集した日本の浮世絵が飾られた自邸とスタジオ。そこで設計された初期代表作の一つであるユニティ・テンプル。計算し尽された建築空間に身を置くと、設計者の意匠が少し見えてくる。



感謝祭の夕食卓

ユニティ・テンプルにて

## 1 「アメリカの冷蔵庫」ミネソタ（MN）州

ミシシッピ川を挟む双子都市、経済中心地ミネアポリスと州都セントポール。モスクワとオタワの激寒に慣れている身にも応える。「アメリカの冷蔵庫」と呼ぶ人もいる。

11月4日、ミネソタ日米協会のガラディナーに招待され、初めて訪れた。

このガラディナーは、ミネソタ州出身で副大統領や駐日大使を務めた故モンデル氏の名前を冠した賞と奨学金の授賞式でもある。モンデル氏は「他者への優しさと敬意、感謝に溢れた人物」と多くの人に慕われ、メンターとして次世代を育成し、引退後も日本とミネソタ州との関係発展に草の根交流を中心に尽力した。そして、モンデル賞やモンデル奨学金を受けた者が日米関係を引き継いでいく。

今年のガラで基調講演を行ったのは、州初の日系米国人女性として選出されたセンサー・ムラ州下院議員。日系人の歴史を教え伝えることの重要性を強調。日系米国人の若手政治家のますますの活躍が期待されている。

ガラ前日には、クリタとダイキン、日系企業2社を視察。「水を究め、自然と

人間が調和した豊かな環境を創造する」ことを企業理念とするクリタは、ミネアポリスでは、半導体製造工程に含まれる精密機械洗浄など、工業用の水処理薬品、水処理装置の製造や運転管理の事業を展開している。「地球規模で考え、行動する」を経営理念の一つとするダイキンは、省エネや環境に優しい冷媒を利用した空調を通じてSDGsに取り組んでおり、ミネアポリスではアプライド開発センターにおいて、商業・産業用途の大型空調の商品開発を行っている。日本商工会議所が存在しないこともあり、ミネソタ日米協会が、在留邦人や日系企業関係者も参画して交流する場を提供。同時に、日系企業が大口スポンサーとしても日米協会を支えている様子が伺える。

ミネアポリスの街を歩いても、人の名前にも、スカンジナビア文化の息吹を感じる。北欧からの移民が多い土地柄、リベラルな政治風土で民主党が優勢。現職のバイデン大統領に対して、先日、州都近郊を選挙区とするフィリップ連邦下院議員が民主党大統領候補レースに立候補を表明した。



センサー・ムラ議員と

クリタ視察

ダイキン視察

## 2 「真面目な働き者(Hoosier)」インディアナ（IN）州

インディアナ州の愛称は「Hoosier」。「真面目な働き者」との意味があると聞く。日系企業約330社が進出し、約7万人の雇用を創出。日本の米国に対する投資の heartland だ。米国の cross-road という地理的要素、交通インフラ、投資インセンティブも背景に、ホルコム知事の熱意とリーダーシップも推進力になっている。

11月8日、ホルコム知事との会談のため、州都インディアナポリス郊外に所在する知事公邸を訪れた。バスケット選手であったホルコム知事は恰幅がいい。センス良く設えられた公邸の幾つかの部屋をホルコム知事自ら案内してくれた。世界の各界の人たちとの写真の数々、贈呈された様々な品々、バスケットや野

球などのスポーツ関連の品々。アメリカでは色々な物を部屋に飾っている部屋をよく目にするが、それだけの空間を持っていることを改めて印象付けられた。会談が終わると、ホルコム知事自ら玄関外まで見送って頂いた。余裕のある応対辞令や所作にも見習うべきものが多い。

知事との会談に向かう途中、ラファイエットにある SUBARU 自動車工場（SIA）を視察。1人1分の工程に細分化された自動車製造プロセスの複雑さと、サプライチェーンの広がりを再認識した。SUBARUの生産ラインは、群馬県の3本とIN州の2本。SIA進出が、群馬県とインディアナ州との協力関係や、太田市とラファイエット市との姉妹都市関係に繋がっている。34年前の開業時、地元住民の憧れの就職先であったという。今後、米国でのバッテリーEV生産も始めることを明らかにしている。



ホルコム知事と

SUBARU 視察

この後、11月末（29日）にも、インディアナ日米協会（JASI）、日本人会（IJC）、名誉領事に着任歓迎レセプションを開催頂き、インディアナポリスを再訪。JASIは、新オフィスに茶室を併設して文化行事等を行っている他、ビジネス関連の活動も多い。日本人会は、年次総会の他、移動領事館の開設、総領事館からの安全情報の伝達、連絡網構築、日本語学校やJASIの活動支援を行っている。

帰路にはパデュー大学を視察し、マン・チャン学長と面談、日本と同大学の間の産業・学界連携について議論・確認した。ちなみにインディアナ州は私が生まれた栃木県と姉妹州県関係を締結。JASIが設立されて現事務局長が就任したのは、私が公務員になったのと同じ1988年。これからも、インディアナ州には頻繁に往訪することになりそうだ。



日米協会の茶室

学長と

パデュー大学の会合にて

### 3 地方からの日米経済・人的交流

北東インディアナ経済開発公社とインディアナ日米協会が、日本とインディアナ州北東部との関係強化を目的に2018年から地域リーダー、企業関係者、政府関係者、シンクタンク関係者等を招いた「日本・北東インディアナ・サミット」を毎年開催している。州政府と群・市当局との連携も日本との経済関係を支える要因の一つ。この会合に招かれて、ホルコム知事との会談の後、州北東部に向かった。

この会合をホストするのはワバッシュ市のロング市長。同市長とは、9月に東京で開催された中西部会でもお会いし、日本語の名刺を頂いていた。同市から車を走らせること40分、ロアノーク村にある Joseph Decuis というレストランでの歓迎夕食会。美食レストラン以外にも和牛を育てる牧場やイン（旅館）も経営する御夫妻からは心温まる歓迎のお言葉を頂き、レストラン内の趣ある幾つもの空間やコレクションを御案内頂いた。群馬県・インディアナ州の交換プログラムで1週間前に来訪した大学生・高校生を、市長は自ら買い物に連れて行き、御主人は自分の牧場に案内したという。経済関係と人的交流は「車の両輪」。好循環が回っていることに勇気づけられた。



会合での挨拶

JOSEPH DEUCIS での夕食会

#### 4 イリノイ州ホロコースト博物館と杉原千畝

13日、シカゴ北西部郊外のスコークイー村に所在するホロコースト博物館を訪問。ユダヤ系米国人が多数居住してきたことを歴史的背景に、世界3番目、全米2番目の規模という。過去と遺産を保存すると同時に、憎しみと偏見と無関心と闘うための教育を行うことを使命にしている。イスラエル・パレスチナ武装勢力間の衝突が起こる中、その重要性が高まっているように感じる。

偶然にも、リトアニアのカウナス領事館で杉原千畝が発給した「命のビザ」で救われたという御婦人と対面した。初対面にもかかわらず、日本人というだけで、私たちの手を取り目に涙を浮かべて、敦賀を経て神戸で学んだという日本語で「有難う」と仰って頂いた。博物館には、杉原千畝に関する展示もあり、来年2月27日は杉原千畝に関する特別行事も予定されている。



視察

杉原千畝と「命のビザ」

#### 5 大統領選挙の年に注目を集めるアイオワ（IA）州

4年に一度、アイオワ州は全米と世界の注目を集める。大統領候補を決めるプロセスの緒戦となる党員集会（コーカス）がアイオワで行われ、その結果がその後の選挙戦に影響するからだ。新顔が期待以上の結果を出してメディア報道に乗って勢いをつける。逆に、結果が芳しくない候補が撤退に追い込まれる。民主党側は種々の理由から2024年のアイオワ・コーカス日程を変更したが、共和党側は1月15日に全米で最初のコーカスを開催する。

そのアイオワ州を11月17日、アイオワ日米協会（JASI）のイベントに招かれ訪れた。酒、太鼓、着物等の日本文化紹介も行われる。日米間で初となる姉妹州関係は、アイオワ州と山梨県との間に1960年締結されている。伊勢湾台風で大被害を受けた山梨県に、アイオワ州が復興支援として豚36頭とトウモロコシを輸送したことがきっかけと聞く。世界食糧博物館に展示された

「Hog Lift (空飛ぶ豚)」として知られる絵画。山梨県からの返礼として州議事堂と向かい合って設置された「平和と友情の鐘」。60年以上にわたる交流の歴史を誇る。州都デモイン市と甲府市も姉妹都市関係を結んでいる。



平和と友情の鐘



空飛ぶ豚



日米協会のイベント